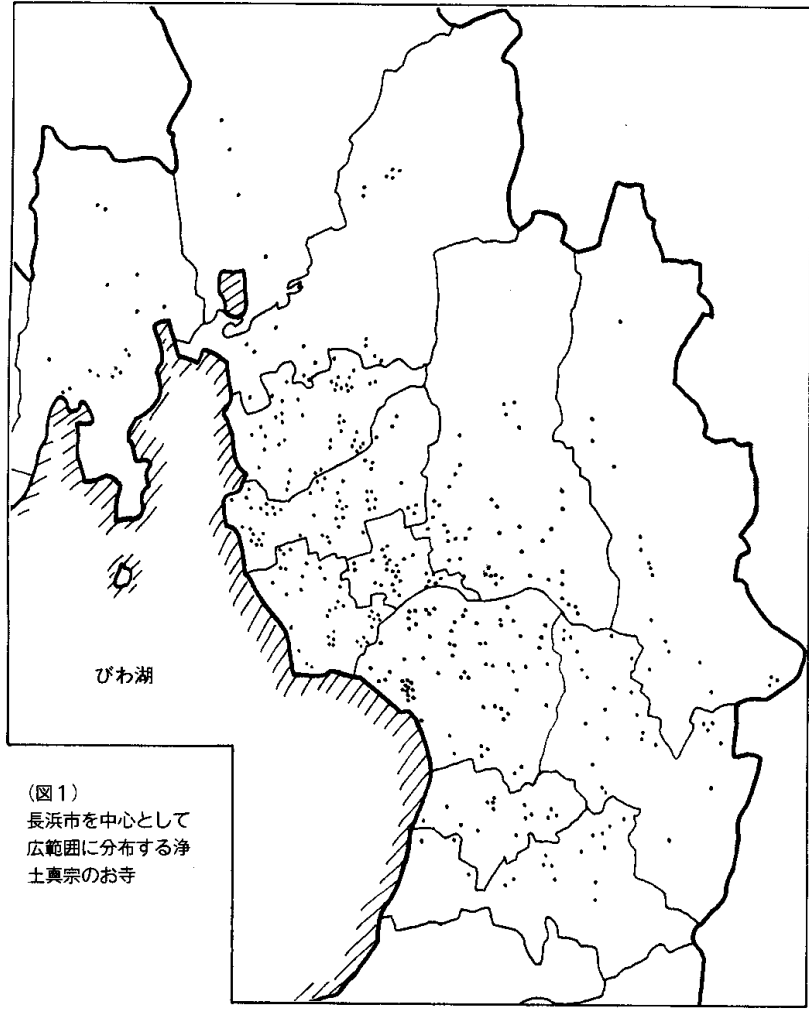


# 大通寺って何や!



(図1) 長浜市を中心として広範囲に分布する浄土真宗のお寺

大通寺は、湖北地域の浄土真宗大谷派の中心的寺院である。昔から交通の要所であったことから、幾多の戦乱の舞台となり、飢えと死への恐怖に苦しめられた湖北の民衆の心の支えとなったのが仏教であり、特に湖北には浄土真宗のお寺が多い(図1)。

この約四百ヶ寺の中心が大通寺であり、仏教文化に深く彩られた湖北の生活文化の中心といっても過言ではない。それゆえに、大通寺は周囲を威圧するようなその外観とは裏腹に、御坊さんの愛称で親しまれ、お花ぎつねの伝説がまことしやかに伝えられてきたのではないだろうか。

そして、もうひとつ、夏休みに入る前の一大イベントとして、多くの人の心をとぎめかせたのが、夏中さんである。夏中さんとは本来、「夏中法要」という宗教行事を指すのにもかかわらず、私たちの頭の中には、夏中さん≡わくわくきうきうの公式がすっかり焼きついている。

しかし、時は移り、懐が厚くなるのに比べて、信仰心は薄くなった現在、大通寺の山門も老朽化し、自慢の庭もうらぶれて、外堀のあちこちがはがれている現状を憂える人は少

## 宗教的空間から遊び空間へ

大通寺に行ったことのある人は、今回のアンケート結果では、八二%の高率であった(表1)。また、何を目的で行ったかをまとめたのが表2である。総合的にみると、大差ないのだが、年代別にみるとかなりの相違点が浮き彫りになる。

二十代、三十代では、その目的の多くが散歩や子どもを遊びに連れて行くことと、夏中さんとなっている。六十代以上の人も夏中さんを目的としている人が多いが、これは夏中法要へのお参りと解釈すべきだろう。

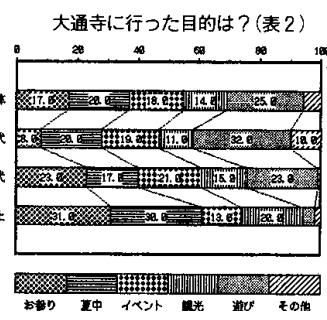
四十代、五十代では、お参り、遊び、イベントの各項目に、夏中さんが続いている。

かつては、信仰の中心地として存在した大通寺が、戦後豊かで潤いのある生活が実現すると、緑や広場の少ない市街地の中での遊び空間として、重要な位置づけをもつようになってきているようである。

このように、年代によって大通寺の意味づけは違うとしても、年の差を越えて、現在の大通寺の有様を憂える人が多いのは、先程述べたとおりである。でも、そこには、二つの異なる考え方があ

## 大通寺を開かれたお寺に

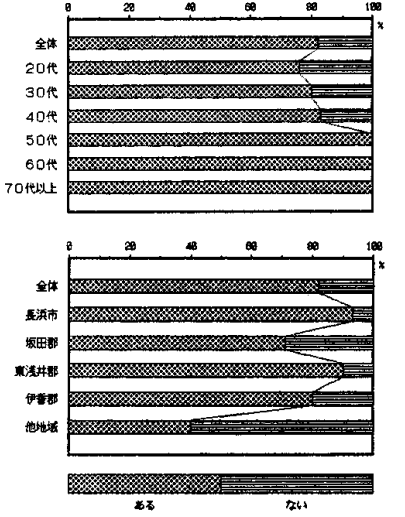
大通寺は、その文化財の多さでも群をぬいている。本堂、広間、客室である含山軒・蘭亭が重要文化財に指定されているのをはじめ、桃山・江戸時代の秀逸な文化財が数多く存在



一方、貴重な文化資産を安易に観光地化させることなく、保全すべきであるという意見。文化資産はみんなの財産なのだから、積極的に公開すべきだが、かといって、他所の人優先の観光地化は、市民の憩いの場としての大通寺の位置づけを損なうという考えである。

大通寺には、祖父母の思い出、子どものころの思い出がいっぱい詰まっている。自分を振り返ることのできる場を、やたらと人に踏みじられたくない、こんな思いがここにはあるのかもしれない。

大通寺に行ったことがありますか?(表1)



ひとは、大通寺が貴重な文化資産であることを最大限に活かして、観光地として大勢の人々に見てもらえるようにすべきであるという意見である。「勇壮な本堂をバックにコンサートを開く」とか、「整備と積極的なP

# 大通寺

なぜ  
なぜ  
なぜ

# 事典

湖北の人にとって、身近な存在の大通寺ですが、よく知っているようで、知らないことも結構たくさんあるものです。

そこで登場ナゼノ博士が、大通寺についての？に何でもお答えいたします。

Q1 大通寺ができるまでの時代背景は、どのようなものでしたか？

本願寺第三世覚如上人（一二七〇～一三五二）の頃から盛んになった湖北の真宗信仰は、第十世証如上人（一五一六～一五四四）の頃になると「北郡坊主衆」と呼ばれるような有力教団を形成していました。第十一世頭如上人（一五四一～一五九二）のとき、大阪の本願寺は織田信長の攻撃を受けましたが、この時湖北の教団は浅井長政と結んで信長に対抗、天正八年（一五八〇）、本願寺と信長は和睦しました。

この頃、教如上人（一五五八～一六一四）は北近江から北陸を盛んに巡錫され、真宗信仰の固い基盤を形成されました。

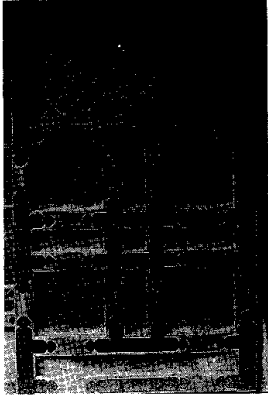
Q2 大通寺建立の契機となったのは、どんなことですか？

Q6 重要文化財に指定されているものもたくさんあると聞きましたが…  
本堂・大広間・大広間の玄関・含山軒・蘭亭が、国の重要文化財に指定されています。山門・脇門（台所門）は、市指定文化財。含山軒、蘭亭の庭は名勝に指定されています。

Q7 それでは、大通寺で使われている畳の数は一体何枚くらいになるのでしょうか？  
本堂は百三十五畳、障子の外側の縁には百八畳、合わせて二百四十三畳です。内陣には四十二畳（本尊のある板張り部分は除く）。大広間は百四十四畳、附玄関十五畳。新御座は、七十二畳と廊下が二十八畳。西側のさやの間は、四室二十八畳と廊下が十六畳。

含山軒は、十畳、十五畳の二室計二十五畳。

▲山門の扉



本願寺十一世頭如上人や十二世教如上人から直接教化を受けた湖北の門徒衆は、上人からいただいた御消息（御文）を拝読してきました。毎月十四日に集まったところから、十四日講と呼ばれたその集会所は、天正年間に呉服町に建立され、後に旧長浜城内に移された。「長浜御堂」とも呼ばれてきました。

Q3 いつ現在地に移りましたか？

教如上人は慶長七年（一六〇二）、第十二世法主として、東本願寺を京都烏丸七条（現在地）に建立されますが、この頃「長浜御堂」は「御坊大通寺」と号することとなり、やがて慶長十一年（一六〇六）長浜城主に内藤信成が入城するのを期に、大通寺は現在地に移りました。

Q4 ずいぶん広い面積ですが、始めからの広さだったのですか？

創建当初の大通寺の敷地は五十間（約九十九）四方。長浜の町外れで、東と北は一面の田んぼだったと思われれます。第十三世宣如上人（一六〇四～一六五八）は、湖北を真宗の要地として重視、二男を大

蘭亭は、十一畳、十五畳、七・五畳の三室と十四畳の縁側、計四十七・五畳です。

Q8 西門の北側にある教務所というのは、何をする所ですか？

これは本山の出先機関で「真宗大谷派長浜役場」とも言えるような、宗憲に基く各種の寺務、手続を行う所です。寺や僧籍にかかわること、門徒の法名院号に関するなどの窓口となっています。

Q9 本堂は伏見城の遺構であるというのは、ほんとうですか？

はい。国の重要文化財に指定されている大通寺本堂（阿弥陀堂）は、桃山時代の建築様式を誇っていますが、もと伏見城の殿舎で、かつては秀吉が朝鮮侵略に先だてて軍議をしたところともいわれています。

慶長九年徳川家康は本願寺を教如に贈り、教如はこれを御影堂としましたが、のち徳川家光から富士山の樞野の巨材の奇進をうけて、御影堂を改築するにあたり、承応元年（千六百五十二）、旧堂を大通寺に移して本堂としたと伝えられています。

Q10 大広間も伏見城から移されたものですか？

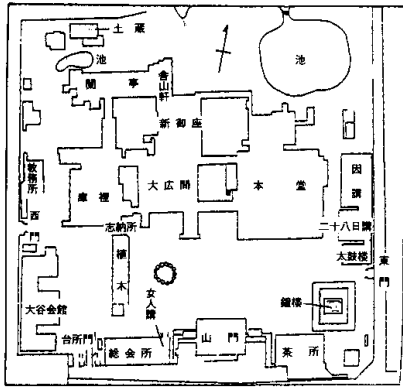
大広間も本堂と同様に伏見城中の殿舎でした。これを、まず本願寺に移築し、さらに御影堂とともに大通寺に移して広間としたと伝

通寺の住職として入寺させました。そして間もなく慶安二年（一六四九）、彦根藩主井伊直孝は寺域の拡張を許しています。こうして、境内七千坪（約二万三千平方メートル）の整備が、四十年の歳月をかけてすすめられました。

Q5 大通寺にはどんな建物があるのですか？

大通寺は見取図のとおり多くの建物群から成っていますが、今はなくなっています。また東門の南側に白砂講と呼ばれた建物がありましたが、これも老朽化のため数年前に取り壊されました。

大通寺見取り図



えられています。上段の間の右側は、武者隠しの襖戸になっていて、寺院建築には似つかない城郭建築の様式をとめています。これも、国の重要文化財に指定されています。

Q11 長浜城から移されたものもありますか？

台所門がもと長浜城の追手門だったと伝えられています。現在地に移されるまでの大通寺は、長浜城の一角の建物を「長浜御堂」「長浜御坊」として使っており、城の追手門を御坊の門として使っていました。慶長十一年（一六〇六）には寛永十六年ともいわれる、大通寺が現在地に移転された時、門も現在の山門の位置に移されました。

文化五年に山門を造営するに当たり、これを台所の正面、即ち現在地に移し、裏門とも台所門とも言っています。

Q12 現在の山門は、いつ、誰がつくったものですか？

壮大なケヤキ造りの山門は、長浜市常喜町の宮大工・宮部太兵衛につくらせています。文化五年に起工、天保十一年（一八四一）の完成までに三十三年かかっています。宮部太兵衛とその子の二代がかりの作です。京都の東本願寺の山門は、焼失後大通寺山門を模して再建されたという話も伝えられています。

山門の楼上には、釈迦如来、弥勒菩薩、阿難尊者の三尊がまつられています。